

第3回川辺町第5次総合計画審議会要旨

日 時：令和元年5月24日（金） 10:00～12:00

場 所：川辺町役場第3会議室

出席者：審議会委員（全員出席）

司 会：企画課長

1 会長あいさつ

2 町長あいさつ

3 協議事項

(1) 後期基本計画 分野別計画（案）について・・・事務局説明

【質疑等】

【第1章について】

(A委員) 第4節「消防・救急対策」ですが、川辺町の救急件数をみると、平成30年度は437人搬送した中で、高齢者（65歳以上）が315人でした。不適正利用はなく中度症以上が大半でした。高齢化社会となり、救急搬送が増えているため病院の受け入れが難しくなっています。難しいとは思いますが、今後この地域の木沢記念病院クラスの病院がもう一つくらい無いと受け入れ体制が維持できなくなることが懸念されます。

(B委員) 第1節の「環境共生」雄鳥川は努力によって改善される川ですか？

(産業環境課長)

町内4河川（雄鳥川・神坂川・尾賀野川・飯田川）上流・中流・下流で年に2回調査して、環境への意識を持っていただけるよう、広報誌と町HPで結果を公開しています。時期によって基準値を超えることもありますが、概ね生活に支障のない範囲です。現在は農繁期のチッソなど原因が分かっていますが、違う要因で汚染されることも考えられるので、今後も監視を続けていきます。

(B委員) 4ページの関連施策(1)の②飛騨川への産業廃棄物や廃水に関する監視は対策されていますか？

(産業環境課長) 飛騨川は県の管轄で監視、水質調査をしています。町民からの異常情報には県と連携して調査、対処しています。

(C委員) 昨日ナーシング川辺で避難訓練を行いました。北小にある備蓄倉庫まで歩くには距離があることから、実際災害になったときに本当に取りにいけるのか疑問を感じましたので、施設敷地内の設置について再度検討してください。また、備蓄倉庫の中にどんな物がどの程度あるのか教えてください。

(総務課長) 今後課題として、福祉避難所へも順次整備していきたいと考えています。備蓄倉庫は町内に11ヶ所ありまして、保存食・ペットボトルの水など相当数保管しています。また防災資材倉庫を併設しまして、災害に対応した発電機・投光機などを一定数保管しています。ご利用に関するご不便等がありましたら、個別に相談してください。

(D委員) 10 頁「消防団員充足率 100%」とありますが、毎年団員確保に困っています。

町外に引っ越した人にも引き続き入ってもらっている状況です。

(総務課長) 消防団員の活動を外からみると大変そうというイメージもあるようです。現在の定員は 174 人で、できるだけ地域や自治会の中で理解を得ながら人数の確保をして町の安心安全に携わっていただきたいと考えています。

(E委員) 2～3 頁「SDGs (エスディーゼズ)」17 の項目について、今後どのように具体的な取り組みをされていくのか教えてください。

(産業環境課長) 国連において採択されたもので、いろいろな分野について持続可能な開発目標として 17 つの項目が定められています。このうち環境に関連したことで「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」、「作る責任、使う責任」、「気候変動に具体的な対策を」などになります。現時点では動向を見極めているところです。環境だけでなく、総合計画の基本計画に掲げたものすべてが SDGs の取り組みに繋がっていくと認識しています。

【第 2 章について】

(C委員) 18 頁「要援護者見守りネットワーク登録事業者」の要件と内容について教えてください。

(健康福祉課長) 町内で活動している郵便局、銀行、農協、生協など 17 事業所に登録していただいています。日頃の仕事で地域を巡回する中で、ポストの様子など普段と変わったところがあれば連絡をいただくことで、孤独死にならないよう対策を練っています。

(F委員) 18 頁にある「高齢者の交通手段を担う具体的な策」について、福祉バス以外で何か考えておられるものがありますか？

(健康福祉課長) 福祉バスは昨年より美濃加茂市への運行を開始しました。今後もバス停の配置、増加など要望を伺いながら改善して参ります。

(F委員) 23～24 頁「高齢者福祉」に関して、介護は町の財政にも大きな負担になるから、介護予防活動の取り組みが重要になります。介護の必要のない人も、予防のための健康づくりで介護施設などを利用できる仕組みがあるとよいと思います。

(健康福祉課長) 介護認定がなくてもデイサービスが利用できる方法で対応しています。また地域でのふれあいサロンを中心としながら、介護予防として運動事業を展開しています。さらに今年は運動のリーダーを育成して、各所での予防活動を実施していきたいと考えています。

(G委員) 国が日本版ニューボラという形で進めている「子育て支援包括支援センター」について、町はすでに設置されていますか？設置されているのであれば、早急に相談体制を整えて、必要な方に必要な情報を届けてください。

(教育支援課長) 子育て支援包括支援センターは今年度 7 月の開設を目指して準備を進めています。

(G委員) 若い世代がどこで住むか選ぶ理由として、子育て環境・支援だけでなく教育やまちづくりも重要になってくるのでこれらを連携して進めてください。

(教育支援課長) 子育て環境の充実はそれ単体ではなく、若者の定住ということで、川辺町

全体で進めて参ります。

(G委員) 達成できたかを評価する目標値が、満足度だけは足りないと思います。若い世代の定住が進んでいることをしっかり評価できるような指標を設定する必要があるのではないかと思います。

(教育支援課長) 目標値は分かりやすい数値ということで満足度を設定しています。若者の定住はその他の分野にも出て参りますので、それ以外の指標についてはまた検討させていただきます。

【第3章について】

(F委員) 38ページの図書室の充実について、町ホームページなどで中央公民館図書室（新刊書など）の紹介はしていますか？

(生涯学習課長) 新刊書の情報は、広報紙でのみ紹介しています。ただいまのご意見を生かさせていただきます。今後はホームページでも紹介させていただきます。

(G委員) 川辺町では図書室の蔵書をインターネットで予約はできますか？他市町村の図書館では検索や予約が可能なところもあります。さらに市町村間をネットワークで連携しているところもありますので、費用はかかりますがやっていただけると利用は伸びると思います。

(生涯学習課長) インターネットでの検索については今後の課題として承り、予算を含めて検討させていただきます。

(G委員) 小学校の将来計画は、重点プログラムにもありましたが、今ある小学校を統合するならば、簡単な会合で終わらせることなく、多くの住民や関係者と何度も対話を重ねて思いをしっかりと聞いてほしい。そしてオープンな形で合意形成を進めていただきたいと強く望みます。学校のことだから「教育」というのではなく、「まちづくり、地域づくり」の観点を含めて考えていただけるとよいと思います。

(教育支援課長) 計画につきましては、現在将来構想のところまで進んでおりまして、具体的には小中連携が取れた学校、3校を統合していきたい、そこまでの構想ができ上がっています。今年度から町民の代表者や関係者による計画策定委員会を作りまして、どこにどんなものができたらいいのか、もう少し具現化したものを検討していきます。また、一般の方々からの意見徴取という点では、将来構想のところでも地域に出向き膝を交えて数カ所で説明会をしてきました。今後もきめ細かく進めていきたいと考えています。

(H委員) 小学校の再編計画について、しっかり町民のいろいろな意見を聴取してほしいと思います。

(教育支援課長) これまで構想の策定を進めてきました。その提言をいただいた後に、各保護者会などで、統合ですとか小中連携について説明してきました。これから具体的な方向に進んでいく中で、さらにきめ細かく意見をお聞きして、ご協力をいただきたいと思いますと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

(I委員) 「こども食堂」というものがありますが、川辺町の子ども朝食欠食の人数はどれくらいいますか？学校での併設を実施しているところもあるそうです。子どもの朝食欠食について教育委員会としてどのように考えてみえますか？

(教育支援課長) 朝食欠食について、H28年は小学生で2.2%、中学生では4.7%となっています。学校での指導により5年前と比べて減ってきていますので、できる限り0に近づけるよう今後も努力して参ります。

(J委員) 「文化財保護」で、米田富士の散策など整備が進められていますが、施設の看板や駐車場がないので、みなさんに来てもらえるようそちらも整備していただきたい。下麻生の南天の滝へ行くにも案内看板がないので、町民にもわかるよう設置していただきたい。

【第4章について】

(K委員) 52 下水道経営の強化のところで、接続率を上げるため未接続世帯に対してどのように勧めていますか？

(上下水道課課長補佐) 跡継ぎがないとか金銭的理由などの諸事情で、高齢世帯等は今後も接続が難しく、水洗化率が上がってこないのが現状です。今後も地道にダイレクトメールでの案内など続けていきたいと考えています。

(A委員) 新山川橋から下流にかけて大型車両が通行できるJRの踏切は、下川辺のコメリのところしかありません。消防車は大型車両のため、線路より西側への出動が遠回りになるので、かわべ眼科前の踏切を通ることはできませんか？

(参事) 川辺町は線路で東西が分断されているため、大型車の通行が可能なのはコメリ前踏切のみです。踏切の改良となりますとJRの条件により実施は難しいというのが現状です。現在町では、国道41号線美濃加茂バイパスの鹿塩インターでの高山方面へのオンオフが整備されることが解決手段だと考えていますので、国や県に働きかけていきます。

(C委員) 42 川辺町で建売住宅を購入して移住を決めた人から、いろいろ物件を見て回ったが、定住助成金をもらえることが決め手になったと聞きました。ただ町内業者が建てたのであればあと10万円もらえたが、建売のためもらえなかったので、できれば同じ額を助成して欲しいとも聞きました。また、なぜ川辺町を選んだのか尋ねたら、田舎過ぎず街過ぎず、そこそこ店もあって駅も近い、何より町内にたくさん桜を見るところがある、そういう環境面から決めたそうです。

(企画課長) 定住促進助成金の制度は、新築または建売の購入には10万円、また町内で3世代同居・近居でさらに10万円加算、そして建築の元請けが町内事業者ですともう10万円加算し、最高で30万円となっています。しばらくはこの制度を継続していきたいと考えておりますのでご理解をお願いします。

(L委員) 町のこれからの人口を考えたときに、居住環境を良くすれば川辺町への移住を考えている方々に良い条件を提示することができると思います。そのためにはバラバラに整備するのではなく、町が住宅地のエリアを決めてそこに道路や上下水道などのインフラを集中的に整備することで安全安心にもつながり、良い移住条件となる居住環境が整うかと思いますがいかがでしょうか。

(企画課長) 委員仰せのとおりインフラ整備、移住定住対策、安心安全なまちづくりが密接に関わっていることは間違いございません。仕組み上は都市計画で色分けしていますが、実際のところでは居住地域に指定していないJR高山線よりも西側の地域や、

比久見地域に新築の住宅が建ちつつあります。都市計画と実態とが一致しておりませんが、そちらに需要があることから特別に優良な農地区域を除いて農地の転用を認めているところです。ご提言を受けまして、できるだけ資源を集中投資できるような方向に進めていきたいと考えますが、現状にも対応していきたいと思っていますのでご理解ください。

【第5章について】

(M委員) 農地所有者は60歳以上が90%となっていることから今後益々遊休農地が増えますので、できましたら24ページの「高齢者の生きがづくり」あるいは54ページの「優良農地の保全」のところに、農地を持たない高齢者が農業と関わりを持って農業を楽しみながら健康で暮らせるような内容を含めていただきたいと思います。それと55ページにある「農業生産組織」は現在存在していませんので、「集落営農の組織化」に変えていただいたほうが良いかと思えます。

(産業環境課長) 高齢者の生きがづくりとして農業に携わることについて、表現を検討します。また55ページのところは、「集落営農の組織化」に変えさせていただきます。

(N委員) 59ページの「名勝」は文部科学大臣が指定した所ではないですか？ここは「名所」が正しいと思います。

(企画課長) 「名のある土地」という意味で使用していましたので、ご指摘のとおり修正いたします。

(H委員) 観光について、緑豊かな川辺町とありますが、それに反して太陽光発電の多さは景観的にどうかと思います。何らかのルールが必要ではないでしょうか？

(企画課長) 散策地の脇にできるのは望ましくありませんが、現状規制するのは難しいです。大規模なものについては開発段階で各法令により協議されますが、空き地程度の規模のものを規制する法令が今のところありません。基盤整備課と共に検討していきますが、個人の土地を規制していくのは難しいということをご承知ください。

(J委員) かつていかだで栄えた下麻生には「まきわら船」という伝統文化があります。川辺おどり花火大会の中で一緒に紹介ながら川辺の文化を皆さんに知ってもらえるとよいと思います。また、上川辺の山頂にある「黒谷公園」を完成させて、観光資源にしたらいよいと思いますがどのようにお考えですか？

(企画課長) まきわら船については、花火大会の主催団体とお金の問題を含めて検討させていただきます。黒谷公園は私有地ですので、今のところ町として資源化する考えはありません。ただし所有者が今後どのように使う考えがあるのか情報を集めながら検討していきたいと思えます。

【第6章について】

(F委員) 63ページの目標値にある自治会加入率について、だんだん数字が下がっています。加入率を高めて地域の繋がりを強くしていくことが地域コミュニティに必要なだと考えますが、下がっていく理由を教えてください。

(総務課長) 住民票の世帯数を分子、区長配布の実際の数を分子の割合で算出しています。住民票上の世帯分離が進んでいることから、親世代と子世代の世帯は分離している

けれど自治会などの組付き合いは一件でしていることによって差が拡大していますので、実際は10%程度高いと見られます。

(F委員) 数字的には難しいかもしれませんが、できるだけ自治会への加入率を高めるような仕組みづくりを検討してください。

(G委員) 61～62ページの協働の推進について、強く進めていただきたいところだと思われていますが、その割に関連施策のところは弱いと思います。パブリックコメントは行政手続きとして重要ですが、計画策定前の段階での住民の声を吸い上げることが重要だと思います。合意に至るまでの過程に十分時間をかけて進めていくべきだと思います。最近では住民と行政だけでなく大学や企業も交えた動きもありますので、住民と一緒に進めていくという観点で協働を推進していくことを強く希望します。

(企画課長) 多様な皆さんからご意見をいただくのは大切なことだと思っています。一足飛びに変えていくことは難しいので、いろいろな方法を検討していく中で委員からも教えていただけるとありがたいと思います。

(B委員) 66ページの「広報活動」のところ町民の声の把握とありますが、町ホームページに自分の意見を投稿する機能はありますか？

(企画課長) 直接コメントできることはありませんが、ホームページから各課につながるメールアドレスはあります。

(B委員) 町長への手紙もホームページから簡単に投稿できる仕組みがあるとよいと思います。

(企画課長) 町長への手紙用のメールアドレスもありますが、周知が行き届いておりませんので、積極的にPRしていきます。

(2) 後期基本計画 重点プログラム(案)について・・・事務局説明

【質疑等】

(A委員) 防災のところ、ヘリコプターの離発着場ですが、昨年4月から最近までにドクターヘリが3回ほど小学校に着陸しています。授業にも影響しますし、砂埃発生を抑えるため消防車による事前の散水にも時間がかかってしまいます。他に着陸できる場所はないでしょうか？例えば川辺出張所の向かいの広い空き地は私有地ですが、今は何もないのでその間着陸できるようにならないでしょうか？

(総務課長) 空き地の使用の是非についてと共に、離発着場の選定についても前向きに検討していきたいと考えています。

(A委員) 南海トラフ巨大地震など想定されていますが、消防団以外に救援活動をする組織は何かありますか？

(総務課長) 公の組織はありません。各地域の防災リーダーですとか、協定を結んでいる事業所や医療機関などが考えられますが、災害対策本部が中心になってそういう方々と取り組んでいきたいと考えています。

(B委員) 川辺ダム湖ふれあいプログラムでは、その中でボート・カヌーを重点的に取り組んでいくことを、町民みなさんに意識を持っていただかないとうまくいかないと思

います。町を盛り上げていくために、ここを重点に集中して取り組んでいくという意識付けを町民のみなさんに拡げていただきたいと思います。

(会長) 本日は長時間に渡り審議していただきありがとうございました。十分意見が反映されていないところもあると思いますので、何かありましたら事務局のほうへ直接お尋ねください。それでは今日の審議はこれにて終了します。

4 その他

次回の開催予定について説明（企画課長）

町長お礼のあいさつ

～終了～ 12:00